

第3学年 地理B 学習指導案

沖縄県立那覇高等学校 教諭 平田 真弓

1. 単元名 世界の人口・人口問題

2. 単元の目標

○人口に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性や人口問題の現状や要因、解決に向けた取り組みについて理解する。(知識及び技能)

○人口に関わる諸事象について、それぞれの場所の特徴に着目し、それらの事象の空間的な規則性や関連する地球鉄火代の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力・判断力・表現力等)

○人口について、よりより社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、各地の人口の増減や分布の変化に見られる規則性、人口問題の現状や要因について扱っている。また、既習した「環境問題」、「食料問題」の単元との関連性も深く、3つの単元を関連付けることで生徒の知識の定着や深い思考力の育成へと繋げることが出来る。また、本単元の最後には民族の共生、多文化社会の共生を図るために求められる能力についても扱う予定である。この内容は今後扱う「民族、言語と宗教」の単元との関わりも大きいため、地理の授業全体を通して今後の社会において求められる人物像について模索する将来設計能力を育成することができる。

(2) 生徒観

対象クラスは3年生理系クラスである。授業に挑む姿勢が積極的で、ペア学習、グループ学習においても、協力的に取り組むことができる。1年生で世界史、2年生で政治・経済、倫理を履修しており、先進国及び途上国の社会の実情についての基本的な知識はすでに身につけている。2年生では総合的な探究の時間において探究活動を行っており、自ら設定したテーマについて研究を進める取り組みを経験しているが、なかなか内容を深化させるところまで到達できていないのが現状である。

本校近隣では多くの外国人労働者が従事している店舗があり、生徒にとっても他の民族と触れ合う機会が多いが、民族の共生を図る必要性や課題を見出している生徒は少ない。そこで、本単元を通して系統的な視点から人口問題を捉え、今後の日本社会が直面する諸課題を考察する思考力を育みたいと考える。

(3) 指導観

本単元では、発展途上国、先進国がそれぞれ直面している課題を実際の実例を通して学び、人口の増減が人口構成にもたらす影響や人口問題に対するあり方について考察させたい。そこで、人口ピラミッドや地図、各種グラフを活用し、ペア学習やグループ学習による話し合いを通して諸問題に対する生徒の関心を高めていきたい。授業開始時に「単元を貫く問い」に対して仮説を立て、授業終了時に同様の問いを再度考察することで自己の考えの変容に気づかせたい。

また、今後の日本において減少した人口を外国人労働者によって賄う可能性は大きい。そこで、「発展的な問い」を設定し、本単元を通して異なる人種、民族、文化をもった人々と共生を図る上で私たちができる取り組みについて考察させ、生徒間の意見の共有を図っていきたい。さらに、今後扱う「民族、言語と宗教」の単元で同様の問いを扱うことで、本単元での考察をより深化させ、考えの変容を見取らせる。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性…人口問題の解決策は一つではなく、宗教、経済状況など様々な視点から模索することが出来る。

相互性…人口が減少する理由も、増加する理由も一つではなく、様々な要因が相互に関連しあっている。

連携性…これからの人口問題は、途上国、先進国だけで解決するのではなく、両者の共生が必要不可欠である。

・ 本学習で育てたいESDの資質・能力

クリティカルシンキング

日本の人口が減少する原因をしっかりと見つけ、解決に必要な施策を考察する
未来像を予測して計画を立てる力

人口が減少し続けた際に発生する諸問題を予測し、その解決策に必要な資質・能力について考える

コミュニケーションを行う力

人口問題について、様々な価値観から多角的に捉える。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

世界中の人々が自国だけではなく、世界規模で人口問題について解決策を追究する必要がある
人権・文化を尊重する価値観

様々な言語、宗教、民族が共生を図る社会の実現に向けて、寛容な態度、柔軟な価値観の育成が重要である

幸福感を大切にする

単純に人口を増加または減少させ、適度な人数に調整することが幸せなことではなく、人々が個として認められ、幸福感に包まれる社会の実現がより良い社会といえる

・ 達成が期待されるSDGs

- 3 健康・福祉 4 教育 5 ジェンダー平等 8 経済成長と雇用
10 不平等解消

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
人口に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性や人口問題の現状や要因、解決に向けた取り組みについて理解している。	人口に関わる諸事象について、それぞれの場所の特徴に着目し、それらの事象の空間的な規則性や関連する地球鉄火代の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	人口について、よりより社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

5. 単元の指導計画（全4時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価(△) 備考(・)
1	<p>【単元を貫く問い】 現在、日本の人口は減少傾向にある。その結果、どのような課題が発生するか。 ①減少を食い止める解決策はあるか。 ②減少が食い止められない時の代替案はあるか。</p> <p>○単元を貫く問いの仮説を立てる。 ・なぜ子どもを産まなくなったのだろうか ・このままだと労働力不足にならないだろうか</p> <p>○人口ピラミッドの特徴を学ぶ ・人口ピラミッドは大きく3つに分類される</p> <p>○日本国内の人口ピラミッドの違いを学ぶ ・川崎市は40代前後の人口が多く、対馬市は20歳前後の人口が減少しているのはなぜだろうか ・「星型」「ひょうたん型」に細分化される</p> <p>Q1. 各国の人口ピラミッドの課題と解決策を整理してみよう</p> <p>○人口ピラミッドから読み取れる課題と解決策を考察させる ・経済の発展とピラミッドの変容に関係性はあるはどのように変化しただろうか ・途上国は、乳児の死亡率が高さから多産多死傾向になっている ・つぼ型の原因は少子高齢化だから、若者の人口を増やす必要がある</p>	<p>○仮説なので、現在思いつく課題及び解決策・代替案を自由に考えさせるようにする（リフレクションシートに記載）</p> <p>○各地域の人口ピラミッドを提示する</p> <p>○社会の変化に伴って人口ピラミッドが変化する過程に気づかせる</p> <p>○神奈川県川崎市と長崎県対馬市の人口ピラミッドと提示し、生産年齢の流出入の違いに気づかせる（グラフから読み取れる内容を考察させる）</p> <p>○「課題」と「解決策」の問いを80字で考察させる（R80の取り組み、リフレクションシートに記載）</p> <p>○グループごとに考察する人口ピラミッドを分担させる（3グループずつ）</p> <p>○各グループの考察を発表させ、意見を共有させる</p>	<p>△ア （知・技） 教材：富士山型・釣り鐘型・つぼ型の人口ピラミッド、川崎市・長崎市の人口ピラミッド</p>
2	<p>○途上国で人口が増加している背景を学ぶ ・乳児死亡率が高い地域は人口が増加 ・インドの人口増加率も高い ・南米は、乳児死亡率と比較すると人口増加率が高い傾向になるがなぜだろうか</p> <p>○人口爆発によって生じる影響、社会問題を考察させる</p> <p>Q2. 途上国では人口抑制のため家族計画が普及されており、その方策の一つに識字率の向上がある。なぜ、識字率と人口抑制が繋がるのか整理してみよう。</p> <p>○識字率が高い地域が人口抑制につながる理由を考察させる ・識字率に男女差がある ・出生率が高い地域は識字率が低く、出生率が</p>	<p>○世界の人口増加率、乳児死亡率のグラフから読み取れることを考察させる</p> <p>○人口増加の背景は経済的な格差や宗教的な理由が背景にあることを気づかせる</p> <p>○環境問題、食料問題の単元を振り返りながら影響や社会問題を考察させる</p> <p>○インドの地域別の出生率と識字率のグラフを提示する</p> <p>○グループごとにグラフから気づいたことを書き出し、識字率と人口抑制の関係性</p>	<p>△イ （思判表） 教材：世界の人口増加率・乳児死亡率のグラフ、インドの地域別出生率と識字率のグラフ</p>

	<p>低い地域は識字率が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・識字率の向上は女性の社会進出を促す以外にも出生率を下げるきっかけにつながっているが何だろうか 	<p>を考察させ、80字で考えをまとめさせる (R80の取り組み、リフレクションシートに記載)</p> <p>○各グループの考察を発表させ、意見を共有させる</p>	
3	<p>○日本や韓国のグラフが「M字」になっている理由を考察させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代後半から30代後半にかけて就業率が低くなっているがなぜだろうか ・女性が結婚・出産・子育ての時期と重なっているが、育児は女性だけの仕事だろうか <p>Q3. 年齢別女性就業率が日本と韓国では「M字」になっている。スウェーデンとの違いはどこにあるのか整理してみよう。</p> <p>○スウェーデンが「M字」にならない理由を考察させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の育休率など福祉の制度が日本では遅れている 	<p>○年齢別女性就業率のグラフを提示する</p> <p>○政治・経済の授業でも扱っている内容なので、復習を含めながらグループで理由を考察させる</p> <p>○ネットや資料集等を活用し、スウェーデンの取り組みを調べさせる</p> <p>○男性の育児参加の取り組みを男性議員の発言等から考察させる (R80の取り組み、リフレクションシートに記載)</p>	<p>△イ (思判表)</p> <p>教材: 年齢別女性就業率のグラフ</p>
4	<p>【単元を貫く問い】</p> <p>現在、日本の人口は減少傾向にある。その結果、どのような課題が発生するか。</p> <p>①減少を食い止める解決策はあるか。 ②減少が食い止められない時の代替案はあるか。</p> <p>○問いの答えを考察させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①男性が育休とれる社会の雰囲気醸成や福祉の充実を図る ・②人口増加している地域の人々を日本で雇用する <p>【発展的な問い】</p> <p>今後の日本では多くの外国人労働者とともに働く時代がやってくる。多民族、多文化の共生を図るために私たちが取り組めることは何だろうか？</p> <p>ちに出ること取り組みを考察させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民族が異なるとは、言語や宗教、価値観の違いが発生する ・外国人が日本で生活する上で困難なことは何だろうか <p>○teamsにまとめられた他のクラスの意見を読んで気づいたこと、共感したことをまとめる</p>		<p>△イ (思判表)</p> <p>△ウ (主体的)</p> <p>教材: 日本の合計特殊出生率のグラフ、人口ピラミッド</p>
<p>○問いの答えを考察させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①男性が育休とれる社会の雰囲気醸成や福祉の充実を図る ・②人口増加している地域の人々を日本で雇用する 		<p>○①、②のいずれかを考察させる (R80の取り組み、リフレクションシートに記載)</p> <p>○各自が選択した問いごとにグループを作成し、意見を共有する</p> <p>○グループでまとめた意見を全体で共有する</p>	
<p>○teamsにまとめられた他のクラスの意見を読んで気づいたこと、共感したことをまとめる</p>		<p>○課題を「自分事」として捉えるよう促す</p> <p>○共生を図る上で自分が出ることまとめさせる</p> <p>○自分のまとめた意見を他のクラスとも共有できるようにteamsに入力させる</p> <p>○発展的な問いは別の単元でもまた扱う問いであることを伝える</p>	